

Computer Center News

2001年7月7日発行

COMPUTER
CENTER
News Letter
Vol.3 No.1
通巻6号Vol.3
No.1

Letter

コンピュータセンター準備室
ニュースレター

- ・621教室の情報教室化について
- ・Microsoft Campus Agreement
アップグレード版のお知らせ
- ・コンピュータ関連科目について

TABLE OF CONTENTS

621教室の情報教室化について

コンピュータセンター準備室運営委員会(平成13年度、コンピュータ委員会より改称)では、以前より学内教育環境の改善としてコンピュータを中心とした様々なメディアを活用できる教室の必要性についてワーキンググループを結成し検討してきました。この検討結果を元に企画・学務・コンピュータの3委員会連名で学部執行部に学内教室のマルチメディア化の推進を平成12年度に要望し、1号館を中心に5教室がAV教室として改修され、4月より利用出来るようになったことは、前号のニュースレターでお伝えした通りです。

この度、更に621教室に96台のコンピュータを設置し、新たにコンピュータ実習室としても利用できる環境が整いましたので改めてお知らせいたします。

ここでまず621教室の改修に至った経緯について簡単にご説明いたします。これまで6号館には各40台のコンピュータを設置し、主に学科専門科目で利用されているコンピュータ実習室・4部屋が整備されていることはご存知のことと思います。また一昨年にはコンピュータリテラシー利用を主眼に整備した160台のコンピュータを設置した631教室があります。631教室はコンピュータを利用しない場合はマルチメディア教室としての利用も可能で、コンピュータ以外の講義にも利用されています。しかし学内には100台程度の中規模コンピュータ教室が無く、さらにはコンピュータ科目以外 群および保守業者常駐場所が6号館であるため、621教室を改造することとし、631教室利用結果を踏まえて仕様を策定しました。

新621教室は可動式防音壁を利用することにより、621Aと621B教室に分割、もしくは一つの教室として利用できます。机

は631教室のように蓋を閉めておけば通常の机として利用可能です(図a)。蓋を開けると内側に15インチ液晶ディスプレイが設置され、キーボードとマウスが利用できます(図b)。机は3人がけて両端にパソコンを設置し、中央には教員からの教材などを提示する表示専用の15インチ液晶ディスプレイが設置されています(図c)。各教室前面には、左側にホワイトボード、右側にチームボードと呼ばれるホワイトボード状のパネルが設置されています(図d)。教師用のパソコンの画面はチームボードと学生机中央の液晶ディスプレイの両方に表示されます。チームボードにはボードから直接コンピュータを制御出来る機能があり、また表示してある教材に直接書き込みをすることもできます。教材を投影していない時には普通のホワイトボードとしても利用できます。教室で利用できるメディアとしては、VHSビデオ、DV、DVD、カセットテープ、書画カメラが用意されています。ホワイトボードとプロジェクターのスクリーンは同時に利用できるように配置され、さらに教室が横長になるため必要に応じて、教室天井に設置されたビデオ・カメラ(図e)によって、ホワイトボードの画面を学生中央の液晶ディスプレイに表示させることも可能です。ビデオ・カメラの映像はビデオ・デッキに録画したり、あるいはRealVideoサーバに蓄積して、授業の補習用に利用することも可能です。

コンピュータシステムは他の実習室と同じ環境になっており、OSはWindowsNT4.0を、アプリケーションとしてはMicrosoft Office2000等を導入しました。またAdvantage Classという、教師・学生間あるいは学生同士の間での画面・音声の転送や、グループ学習によるコラボレーション等に対応した授業支援システムも導入しました。(T.K.)



左から：(本文中)図-a～e、右下：教室全体像

各種お問い合わせ

コンピュータセンター準備室運営委員会
及び学内の情報基盤について

center@chs.nihon-u.ac.jp

受付時間：月～土曜日 8:50～16:30

電話：03-3329-1151(内線 5901)



Microsoft Campus Agreement
アップグレード版のお知らせ

昨年度より文理学部教職員を対象に導入されましたMicrosoft Campus Agreement (以下、MCA) で利用可能なソフトウェアのアップグレード版についてお知らせいたします。

今回、最新のアップグレード版としてご利用いただけるのは、下記のソフトウェアです。

- Microsoft Office XP
- Microsoft Office XP英語版

なお、2001年5月以降に発売されたMicrosoft社製ソフトウェアについては、プロダクト・アクティベーション・テクノロジーという新たなライセンス認証が必要となり、MCA専用のプロダクト・キーと専用のインストール・メディアが必要となりました。これにより今後、市

販されているパッケージをMCA用に利用することができなくなりましたのでご注意ください。今後、MCA契約の範囲でMicrosoft社製ソフトウェアをお使いいただく場合は、必ずセンター準備室備え付けのインストール・メディアをお使い下さい。

上記ソフトウェアをご利用になる場合は、センター準備室備え付けの申請用紙に必要事項をご記入の上、お申し出下さい。

また上記以外のソフトウェアについても常時、利用申請を受け付けておりますので、必要な場合はセンター準備室までお申し出下さい。MCA及びMCAで現在利用可能な製品の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.microsoft.com/japan/education/purchase/campus.htm>

(I.T.)

コンピュータ関連科目について

昨年度より施行された新カリキュラムにおいて、近年のインターネットの普及をはじめとする情報化社会への対応を目的として、コンピュータの基本操作およびインターネットに関する基礎知識を主な内容とする「コンピュータリテラシー」をはじめとしたコンピュータ関連科目(半期)の大幅な拡充および新設が行われました。

今年度は、ネットワーク化の急速に進みつつある企業への就職あるいは中学校・高等学校などの教員を目指す学生に対して、ネットワークに関する基礎的な知識や技術を習得できる内容も盛り込んだ情報処理Ⅰ・Ⅱ(含む演習)を開講し、コンピュータ関連科目のさらなる充実を図っています。

開講方法についても、昨年の受講者実績および各学科のコンピュータ科目に対する必修・推奨などの取り扱いに関する調査に基づき、開講コマ数と方法を検討した結果、前期に「コンピュータリテラシー」を18コマ配置し、「コンピュータリテラシー」をふまえた応用的な科目である各種活用法の授業を後期に重点的に開講するようになりました。

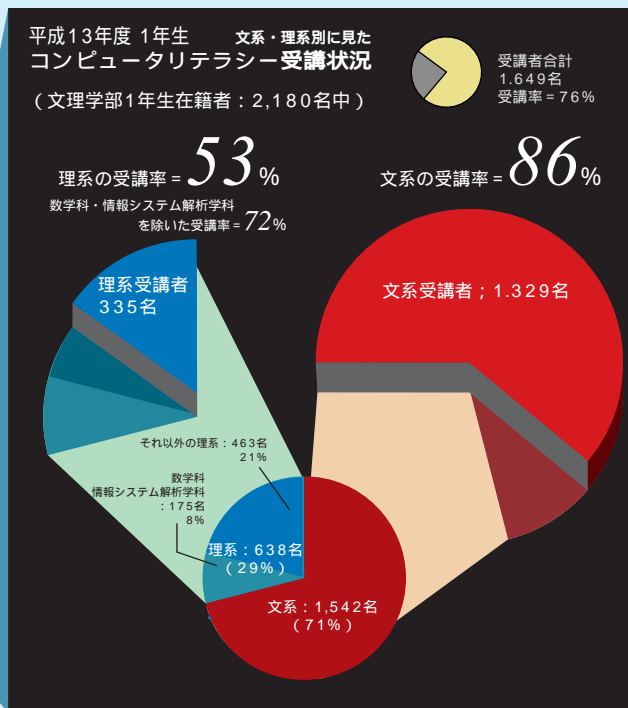
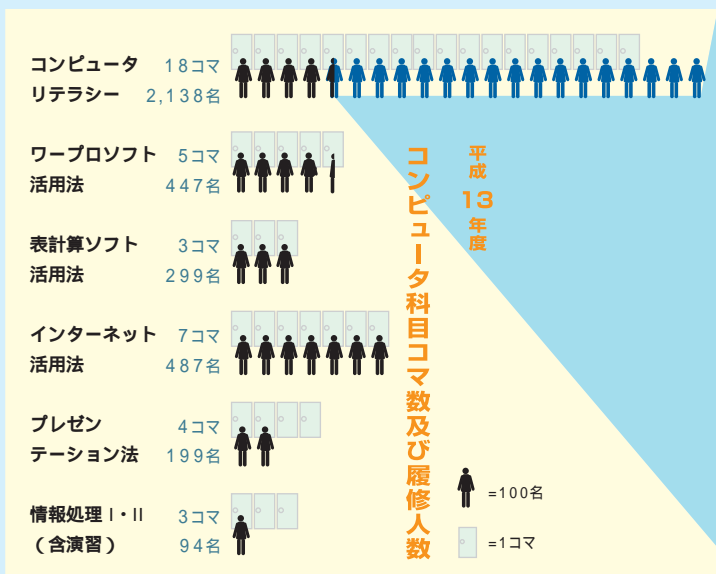
4月の受講申込受付の結果は下記のようになっています。「コンピュータリテラシー」について見てみると受講者が

2,138名、そのうち新生は1,649名となり、新生全体の76%が受講していることとなります。特に文系では、実に86%という結果となりました。

しかしながら後期開講の各種活用法については、一部を除き教室収容定員まで余裕のあるコマも存在する結果となりました。そこでコンピュータセンター準備室運営委員会では、後期の追加履修登録を認めていただけるよう上申をしています。

昨年度からの継続的な課題として残るのは、受講希望があっても他の科目、とくに学科やコース科目の必修科目との重複のため、実際には受講できない学生が少なくないということです。このためコンピュータ科目の開講方法については、来年度に向けて、新生に対しては準必修とし、クラス毎に各学科の必修科目と重複しない時限を指定するなど、より多くの学生の受講希望が叶う方法を鋭意検討しています。

みなさまのさらなるご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。(Y.B.)



編・集・後・記

お勤め始めて早や3ヶ月。あっという間に季節が巡りいよいよ梅雨。校内のツツジも桜の葉も雨に濡れてそれは風情がありますが、湿気はたぶんにこまりもの。床は滑るし、あちこちべたつくし。でも今年は快適グッズを発見！靴用除湿剤がかわいいウサギさん。繰り返し使えるし。こんなことでも毎日がうっとしくなれば、あっという間に夏が来ますね。皆さんの梅雨対策はいかがでしょう？(M.N.)